

## JP1×RPAによる業務プロセス自動化



## IHI

## 株式会社IHIエスキューブ

IHIグループのものづくりを支えるグループ内唯一のICTスペシャリスト集団として、航空エンジンや発電プラントなど様々なものづくりビジネスにおけるICT活用を通じて培った経験とノウハウを基に、総合ICTサービスを提供しています。

所在地：東京都江東区豊洲三丁目1-1 豊洲IHIビル

設立：2003年4月1日

資本金：2億6千万円

従業員数：519名(2021年4月現在)

URL：https://www.iscube.co.jp/

(取材日：2021年9月)

## POINT

JP1とRPAツールの連携により、  
基幹業務の  
広範囲な自動化を実現

ユーザーが任意のタイミングで  
RPA処理を実行できる仕組み  
により、業務工数を削減

JP1を「デジタルワークフォース」  
実現に向けたプラットフォームの  
重要要素として位置づけ

## タスク自動化からプロセス自動化へ JP1とRPAツールの連携で 年間2万時間超の工数を削減

IHIグループの情報システムの設計、構築、運用を担うIHIエスキューブでは、IHIグループ全体の業務自動化を促進するためにエンタープライズ向けサーバ型RPAツールを導入しましたが、その運用管理に掛かる工数が課題でした。そこで、基幹システムの運用プラットフォームとして利用していたJP1と連携させ、他のタスクとともにRPA処理も一元管理し、業務プロセス全体をシンプルかつ効率良く運用できる仕組みの構築を進めています。

## 課題

## 対策

## 効果

- RPAツールの導入に伴う運用管理の負荷増加が懸念されていた
- RPA処理を、定義されたスケジュール以外でも、ユーザーが任意のタイミングで効率よく実行できる手段を模索していた
- RPA処理を既存の運用タスクと連携させたプロセス完全自動化の実現を目指していた

- RPA処理をJP1のジョブとして登録し、JP1で一元管理する仕組みを構築
- JP1のWebコンソールからユーザーがRPA処理を簡単に実行できる仕組みを構築
- 基幹バッチ処理の前後に行っていた人手によるデータ集計／登録作業を、RPAツールで自動化

- JP1でRPA処理も管理できるようになったことで、運用管理業務の工数を削減
- ユーザーが任意のタイミングでRPA処理を実行できるようになり、効率よく確実に業務を進めることができた
- 夜間の人手による作業が不要になるなど、業務の工数削減や期間短縮を実現

### JP1とRPAツール連携例 調達システムへの要求登録 月平均200図面 620時間/年の工数削減

## 工数

## 作業内容

## BEFORE

頻度：5日/週 18分(1図面分)

紙資料から必要情報を集める

8分

システムに必要情報を入力など

10分

要求登録完了

## AFTER

頻度：2日/週(溜めて処理)

2分強(1図面分)

## RPAツール

夜間  
計画表リスト作成

## 製品構成管理システム

日中  
計画表から要求フラグ納期・予算記入

## 随時実行リクエスト JP1 + RPAツール

部品リスト図版・符号のリスト作成

要求登録用Excelファイル生成

Excel内容システムへ要求登録

一時保存完了  
一時保存データ確認 + 要求登録

## JP1×RPAによる業務プロセス自動化

### 業務自動化・効率化のために導入したRPAツールの運用が課題に

日本を代表する総合重工業メーカーとして、資源エネルギー、産業機械・社会基盤、航空宇宙など様々な分野で人々の生活を支え続けるIHIグループ。その一員として同グループの情報システムの構築・運用を担っているのが、株式会社IHIエスキューブ（以下、IHIエスキューブ）です。

IHIグループでは現在「DXを活用したビジネスモデルの変革」の取り組みを強化しており、人的リソースを確保するために既存業務の効率化や自動化を進めています。2016年に各事業部門の共通業務を標準化してBPOサービスに委託するとともに、グループ内のICT基盤も共通化/標準化して攻めのITへの人材シフトを図っています。

こうした施策の効果をさらに高めるために2019年から始めたのが、RPAの検討でした。IHIの情報システム部門とIHIエスキューブの共同プロジェクトで、エンタープライズ向けサーバ型RPAツールの導入を進めるとともに、運用ルールやプロセス、体制を整備してきました。その結果、一定の効果は得られたものの、IHIエスキューブビジネスソリューション事業部 副事業部長 亀田彰氏によれば、RPAツールを単体で使い続けることによる限界も明らかになってきたと言います。

亀田氏 弊社では基幹システムの運用プラットフォームとして長年JP1を利用してきましたが、これに加えて新たにRPAツールの運用の仕組みを導入すると、運用工数が大幅に増えることが予想されました。か



亀田彰氏

いて、RPAツールのためにJP1と同等の運用プラットフォームや体制をわざわざ新たに組むことも、現実的ではありませんでした。

### 既存のJP1の運用プラットフォームにRPA処理を組み込んで一元管理

そこで同社は、RPAの処理をJP1のジョブとして登録することで、既存のJP1の運用プラットフォーム上でRPAツールの運用管理も行う方式を採用しました。

この方式には管理工数削減以外にも多くのメリットがありました。例えば、JP1がジョブ管理製品として備える強力なジョブスケジューリング機能により、会社や事業所ごとの「営業日カレンダー」に沿った柔軟なスケジューリングが、RPA処理でも可能になります。また、同社には基幹系システムのバッチ処理の結果を手作業で集計・チェックし、さらに別のシステムに入力してバッチ処理を流す業務があります。その業務の手作業部分をRPAツールで自動化してJP1のジョブとして実装すれば、すべてのプロセスを自動実行できるようになります。

また、RPAの処理を「ユーザーが任意のタイミングで実行できる」という点も重要でした。

亀田氏 サーバ型のRPAツールなので、あらかじめ定めたスケジュールに沿って処理を実行することを前提としています。しかし実務の現場では、ユーザーが任意のタイミングで処理を実行したい場面も多々あります。その点、RPA処理をJP1のジョブとして登録しておけば、JP1のWebコンソール上からRPAのジョブを個別に指定して、オンデマンド実行できるようになります。

こうした、RPAツール単体でのタスク自動化からJP1と組み合わせた「プロセスの自動化」とオンデマンド実行の活用をすることで、夜間行っていた運用者のチェック作業が不要になり人的負荷が軽減され業務の正確性や効率化が増すという、大きな効果が期待できました。

### JP1とRPAツールの連携により2万時間を超える工数削減を達成

JP1とRPAツール連携の実装・展開は、これまでJP1の構築や運用をサポートしてきたアシストの協力を得たこともあり、大きなトラブルもなく順調に進みました。その結果、ある部署では、月平均200枚の図面の中から人手で部品情報を抽出し、それらを整理してシステムに入力していた作業を自動化したところ、年間620時間もの工数削減が実現しました。自動化を実装した業務全体では、2020年度中に39業務/82プロセスが自動化され、年間2万3772時間もの工数削減を達成しました。

また前述したように、各種バッチ処理の合間に行っていた人手作業を自動化したことで、各種データ処理に要する時間が短縮され、決算期間

が1日以上短縮するなど様々な業務で工数削減が実現していると言います。

こうした作業自動化の効果に加え、コロナ禍により多くの社員が在宅勤務に移行した結果、リモートワークでも生産性を維持して業務を滞らせない仕組みが求められるようになってきました。この要求に対して、まさにJP1とRPAツールの連携ソリューションが役立っていると亀田氏は話します。

亀田氏 RPAツールはあくまでも個々のタスクを自動化できる仕組みに過ぎませんから、個々のタスクを連携させて業務プロセス全体を電子化、自動化する仕組みとしてJP1との連携ソリューションが大いに役立っています。

### JP1を中心に各種ツールを一元管理する「デジタルワークフォース」のプラットフォームを構想

現在同社では「デジタルワークフォース」をキーワードに、「Afterコロナ」「Withコロナ」にふさわしい働き方を模索しています。コロナ禍が収束した後もリモートワークが当たり前になると考えられることから、「これからは従業員がいつでもどこにいても働ける環境、つまりデジタルワークフォースをいかに実現できるかが企業の浮沈を大きく左右するだろう」と亀田氏は予想します。

亀田氏 デジタルワークフォースを実現するには、RPA以外にもワークフローやチャットボット、電子契約など様々なITツールを駆使して業務全体を電子化する必要があります。そのため、これら様々なツールを互いに連携させて業務プロセス全体を電子化するための統合プラットフォームとして、JP1が大いに役立つのではないかと考えています。

こうした将来構想を実現するためにも、同氏は今後もJP1とアシストには大きな期待を寄せていると話します。

亀田氏 RPA以外の様々なツールとの連携を実現するためにも、JP1にはぜひオープンなインターフェースを充実させてもらいたいですね。また世の中には無数のITツールが存在していますから、それらの中からIHIグループにとって最適なものを選ぶために、今後ともぜひアシストさんの“目利き力”に期待したいと思います。

お問い合わせは **株式会社アシスト**



URL: <https://www.ashisuto.co.jp/enishi/> E-Mail: [enishi\\_mkt@ashisuto.co.jp](mailto:enishi_mkt@ashisuto.co.jp)

東京 〒102-8109 東京都千代田区九段北4-2-1 市ヶ谷スクエアビル	TEL:03-5276-3653	大阪 〒530-0011 大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪タワーA 13F	TEL:06-6373-7113
札幌 〒060-0003 札幌市中央区北3条西4-1-1 日本生命札幌ビル 16F	TEL:011-281-1161	広島 〒730-0011 広島市中区基町12-3 COI広島紙屋町ビル 3F	TEL:050-3816-0974
仙台 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-20 花京院スクエア 19F	TEL:050-3816-0970	福岡 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1 九軌筑業通ビル 9F	TEL:092-481-7156
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦1-11-11 名古屋インターシティ 4F	TEL:052-232-8211	沖縄 〒900-0014 那覇市松尾1-10-24 ホークシティ那覇ビル 4F	TEL:050-3816-0976
金沢 〒920-0853 金沢市本町2-15-1 ポルテ金沢 8F	TEL:050-3816-0972		

※本事例は取材時の内容に基づくものです。※製品内容は、予告なく変更される場合があります。※記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

JP-2540CT21